

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 16 年 12 月 9 日 (2004.12.9)

【公開番号】特開 2002-114638 (P2002-114638A)

【公開日】平成 14 年 4 月 16 日 (2002.4.16)

【出願番号】特願 2000-302983 (P2000-302983)

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 7/021

A 6 1 K 7/032

【F I】

A 6 1 K 7/021

A 6 1 K 7/032

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 12 月 22 日 (2003.12.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

補色の関係にある 2 種のメイクアップ化粧料が、ピンクのメイクアップ化粧料とブルーのメイクアップ化粧料の組み合わせである、請求項 1 ~ 3 何れか 1 項に記載のメイクアップ化粧料セット。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

ピンクのメイクアップ化粧料の色が、マンセル色座標に於いて、4 . 4 ~ 4 . 9 R P 5 . 8 ~ 6 . 4 / 3 . 6 ~ 4 . 2 で表される色であり、ブルーのメイクアップ化粧料の色が、マンセル色座標に於いて、4 . 6 ~ 6 . 6 1 B 6 . 3 ~ 6 . 8 / 0 . 9 0 ~ 1 . 1 0 で表される色であることを特徴とする、請求項 4 に記載のメイクアップ化粧料セット。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

【課題を解決するための手段】

この様な状況に鑑みて、本発明者らは明度印象を変えずに色の濃淡を変える技術を求めて鋭意研究努力を重ねた結果、パール感を有する化粧料 2 種以上からなるメイクアップ化粧料セットであって、前記メイクアップ化粧料セットを構成する化粧料の内、少なくとも 2 種が、補色の関係にあることを特徴とする、メイクアップ化粧料セットを組むことによりこの様な技術が可能であることを見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は、以下に関する技術に関するものである。

( 1 ) パール感を有する化粧料 2 種以上からなるメイクアップ化粧料セットであって、前記メイクアップ化粧料セットを構成する化粧料の内、少なくとも 2 種が、補色の関係にあ

ることを特徴とする、メイクアップ化粧料セット。

(2) 補色の関係にある少なくとも2種のメイクアップ化粧料が、何れも含有する粉体全量に対して、パール剤を30～60重量%含有することを特徴とする、(1)に記載のメイクアップ化粧料セット。

(3) 補色の関係にある少なくとも2種のメイクアップ化粧料の内、少なくとも1種が虹彩箔を25重量%含有することを特徴とする、(1)又は(2)に記載のメイクアップ化粧料セット。

(4) 補色の関係にある2種のメイクアップ化粧料が、ピンクのメイクアップ化粧料とブルーのメイクアップ化粧料の組み合わせである、(1)～(3)何れか1項に記載のメイクアップ化粧料セット。

(5) ピンクのメイクアップ化粧料の色が、マンセル色座標に於いて、4.4～4.9 R P 5.8～6.4 / 3.6～4.2で表される色であり、ブルーのメイクアップ化粧料の色が、マンセル色座標に於いて、4.6～6.6 1 B 6.3～6.8 / 0.90～1.10で表される色であることを特徴とする、(4)に記載のメイクアップ化粧料セット。

(6) アイカラーであることを特徴とする、(1)～(5)何れか1項に記載のメイクアップ化粧料セット。

(7) マンセル色座標に於いて、4.6～6.6 1 B 6.3～6.8 / 0.90～1.10で表される色であることを特徴とする、メイクアップ化粧料。

(8) パール剤を30～60重量%含有することを特徴とする、(7)に記載のメイクアップ化粧料。

(9) アイカラーであることを特徴とする、(7)又は(8)に記載のメイクアップ化粧料。

(10) ピンクのアイカラーの加法希釈用であることを特徴とする、(7)～(9)何れか1項に記載のメイクアップ化粧料。

以下、本発明について、実施の形態を中心に更に詳細に説明を加える。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

本発明のメイクアップ化粧料セットは上記の補色関係にある少なくとも2種のパール感を有する化粧料以外に、それ以外のメイクアップ化粧料を構成要素とすることができる。このような任意の化粧料としては、他の補色関係にある2種の化粧料、従来の化粧料であって、使用部位が同じもの、前記必須構成要素の化粧料の仕上がりのニュアンスに変化を与えるようなものなどが例示できる。勿論、上記の必須の構成要素のみを構成要素とすることも可能である。これら、本発明のメイクアップ化粧料セットを構成する化粧料は、同一容器中に収納され、極めて近傍に配置されることが好ましく、例えば、同一中皿に充填しておくことが特に好ましい。これは、調色混和が行いやすい為である。